

「わたし」の本棚
つくります

まちと公共施設の未来をともに創造する
小千谷リビングラボ

第14回 「at！おぢや」

未来の体験を想像しよう！

開催報告

概要

この事業では、施設の整備段階から、市民のみなさんと行政が新しい施設の活用方法や地域の価値・課題などについてともに考えていく場として、小千谷リビングラボ「at！おぢや」を立ち上げ、継続的な活動を通じてオープン後の施設活用と中心市街地の活性化につなげていくことを目指しています。

第14回では、施設の中核である「図書館機能」について、本棚づくりを楽しむことでこれからの施設で生まれる体験のイメージを膨らませました。「わたしの世界（テーマ）」を表現すること・人の世界に触れることで、書架（本棚に本が並んでいること）についての可能性や面白さをみなさんと体験しました。

実施日時 : 令和 5 年 7 月 30 日 (日) 13 時 30 分～16 時 30 分

実施会場 : 小千谷市立図書館

参加者 : 35名

- ・一般参加者 (22名)
- ・小千谷市役所職員
- ・(株)国際開発コンサルタンツ (IDEC) ※情報環境計実装支援業務受託者
- ・アカデミック・リソース・ガイド(株) (arg) ※施設運営準備支援業務受託者

配付資料 :
・第14回小千谷リビングラボ「at！おぢや」「まちと公共施設の未来をともに創造する」
・「本づくりプロジェクト」の作品へのコメント作成のお願い

1. 挨拶：小千谷市（13:30～13:35）
2. 事業説明：小千谷市（13:35～13:50）



にぎわい交流課 複合施設開設準備室
(図書館内)

- 複合施設開設準備
- 小千谷市立図書館運営

多様な人たちが、多様なままに、
一つの空間を自分の居場所として
使いこなしてくれる施設

▼
共創

図書館等複合施設整備事業の概要と
この事業が重視している「共創」について、
また、事業の進捗状況や施設が目指している方向性を共有しました。

公募型プロポーザル最終審査結果

- 情報環境構築事業者
「おぢや複合施設プロジェクト共同企業体」
- カフェ運営事業者
「NISCIRO」



情報環境構築とは・・・

▼
実空間と情報空間の融合

3-1. オリエンテーション：arg (13:50~14:55)



小千谷リビングラボ「at! おぢや」本開催外の取り組み

▲▲▲ 「わたしの本」をつくるプロジェクト ▲▲▲

おぢや あたら しせつ おも
小千谷に新しくできる施設への想いを
みんなで描いてみよう!

at! おぢや参加者の方の
発案で始めました!

点線内に書いてください

点線内に書いてください

わたしの図書館
開館します
とき 8月5日(土)~13日(日)
ばしょ 市立図書館
(こども図書館内)

注: 小学生の皆さんに書いてもらった、こんな図書館あったらいいな、をテーマにした「わたしの本」。その中でも一人一人違った「あじやないうっけい図書館」が出来たのでお楽しみください。

絵はもっていきただけでは、かたい紙せん。ことばしたり、紙に書いてあることで、表現する可
能性が広がります。

子どもたちの夢をかなえたい。
そんな想いを込めて、「わたしの図書館」開館します。

まっすぐライオンも大活躍!
あじやないうっけい図書館
あじやないうっけい図書館
あじやないうっけい図書館
あじやないうっけい図書館



小千谷リビングラボ「at! おぢや」のこれまでの振り返り、
小千谷小学校PTAや新潟工科大学の本事業に関わる取り組みの共有・呼びかけとともに、
今回のテーマである図書館における本棚（配架）についての共有や
その基本的なルールである日本十進分類法を体験するデモンストレーションを行いました。



日本十進分類法とは

現在の図書館（そして全国の多くの図書館）は
日本十進分類法に則って配架されています。

日本十進分類法とは

日本で使われている図書分類法。
図書の主題となる、あらゆる知識を1~9の数字を用いて分類し、どの区分にも属さない全般的なものには0を用いる。そしてさらに、0~9に分けるという繰り返しで分類を細分化している。



3-2. オリエンテーション：arg (13:50~14:55)

新施設での方向性

新施設の配架に関する方向性（現状案）

実空間に用意される資料や、ウェブ資料に接続するための情報端末は、「知」のアンカーやこどもとしゃかんの書架、動的な資料空間であるフロートエリア、閉架書庫を中心に配置・収蔵していきます。また、各アンカーの内部や外壁にもそこで起こる活動と関連付けた資料を配置していきます。

図書館においては、それらの資料にどのように出会うかが、人々の体験や過ごし方と強く結びついています。**この施設では、各資料の表す情報の体系やその並べ方だけでなく、それぞれのエリアや空間で起こる活動と連続した形で資料の配置を継続的に検証・検討していきます。**



lll ↑

本と出会うために

日本十進分類法は慣れると探しやすいけどこどもにとっては難しいキーワードも多い	→	こどもの目線になったキーワードをつくる
同じような内容でも分類が異なるため複数箇所に本が置いてある	→	分類に縛られないテーマ配架にすると1か所に置ける
あの場所にあるこの本を借りにくる = 同じような本としか出会えない	→	テーマ配架にすることで棚の内容が変化しつづける = 新しい本との出会いがある

*

配架についての基本的なルールを確認・体験したのち、
新施設で目指す図書館の配架についての全体的な方向性を共有しました。
その中で、こどもとしゃかんと「フロート」の考え方について紹介しました。



フロートの考え方

書架の配置から「小さな資料のまとまり」を読み取ることができる

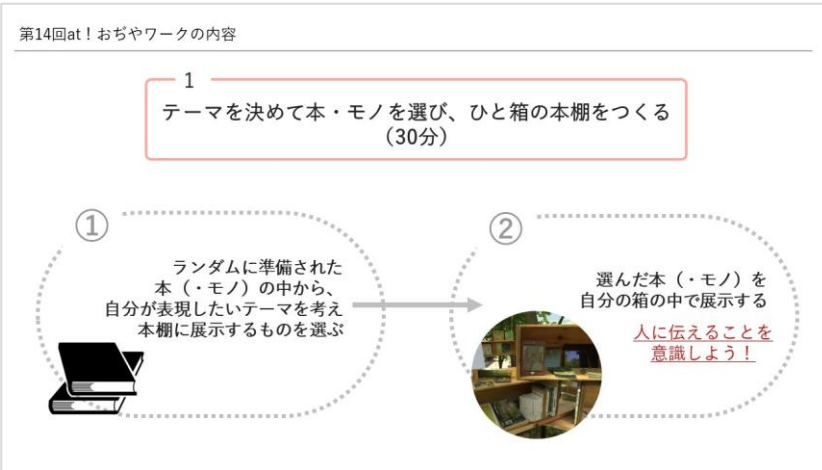
通常は隣り合わない棚を近づけたり、遠ざけたりすることで、普段は気づかない本と本、棚と棚の関係に気づきます。

フロートは、「小さな資料のまとまり」をつくったり、利用者が読み取ってもらうことのできる仕組みです。



4. ワーク「ひと箱の本棚づくりから「わたしの世界（テーマ）」を表現しよう」（14:45～15:55）

5. まとめ（15:55～16:00）



ひと箱本棚の例

「ホンダナ〜」作成の本棚①



※「ホンダナ〜」：棚づくり・本を通して、市民や職員の枠を超え、交流をつくることを目標に取り組みを継続しています。

2022年11月展示「読む×〇〇」

- ・カウンター正面にある特集用の棚をマンションに見立てて本を展示
- ・「〇〇」の部分は、各自が「読む」から連想したものをテーマとして設定

テーマ

「読む×声」、「読む×過去・現在・未来」、「読む×昔話」、「読む×えらぶ」、「読む×児童文学」、「読む×極北の生活」、「読む×時代」、「読む×文字以外…」

※棚の空きスペースは、図書館に来た方の自由参加もOKとしている。

at！おぢやから派生した活動、「ホンダナ〜」の昨年度の取り組み（本棚展示）を紹介したのち、事前に小千谷市立図書館内からランダムに抜き出した500冊の本の中から、参加者が各々本を選び、「わたしの世界（テーマ）」を表現するためのひと箱本棚づくりを行いました。

また、出来上がった本棚は参加者同士で紹介し合い、互いの表現した世界を共有しました。



アフターお茶会 (16:00~16:30)

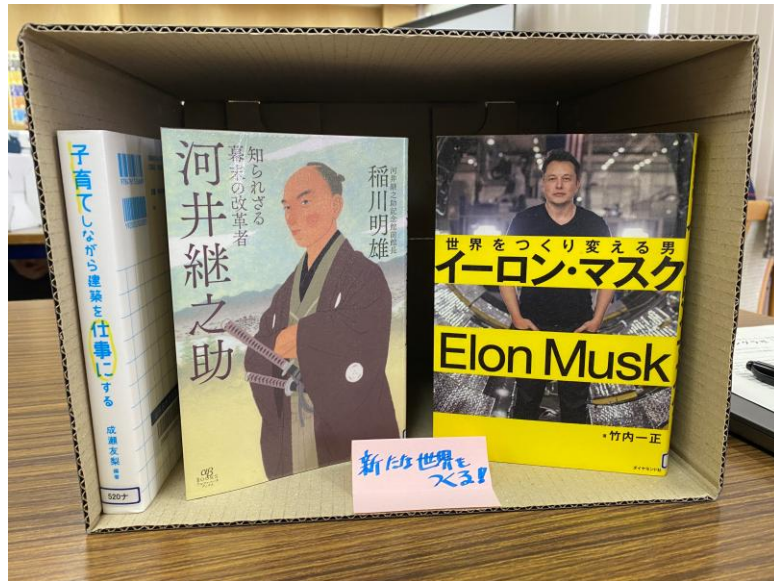


終了後、お茶やお菓子をつまみでの歓談の時間として、アフターお茶会を実施しました。
ワークの感想等、思い思いに参加者同士での会話をリラックスして楽しむ時間となりました。

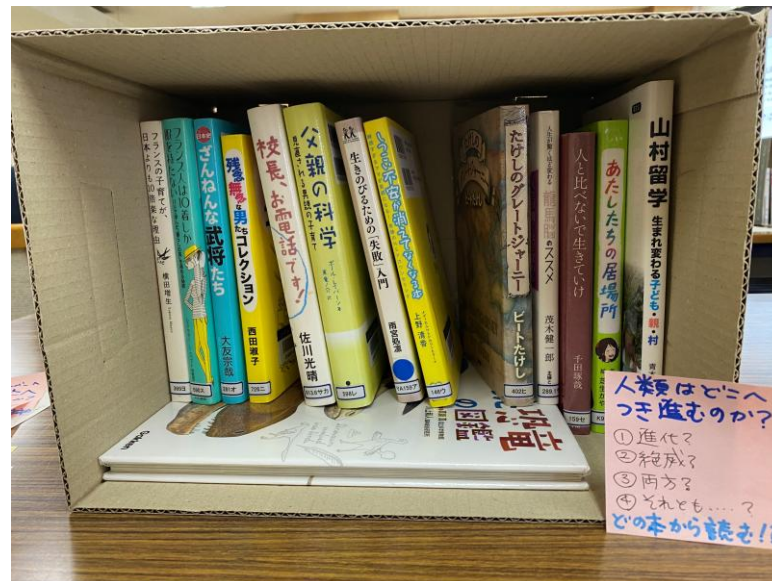


わたしの世界（テーマ）の本棚（1）

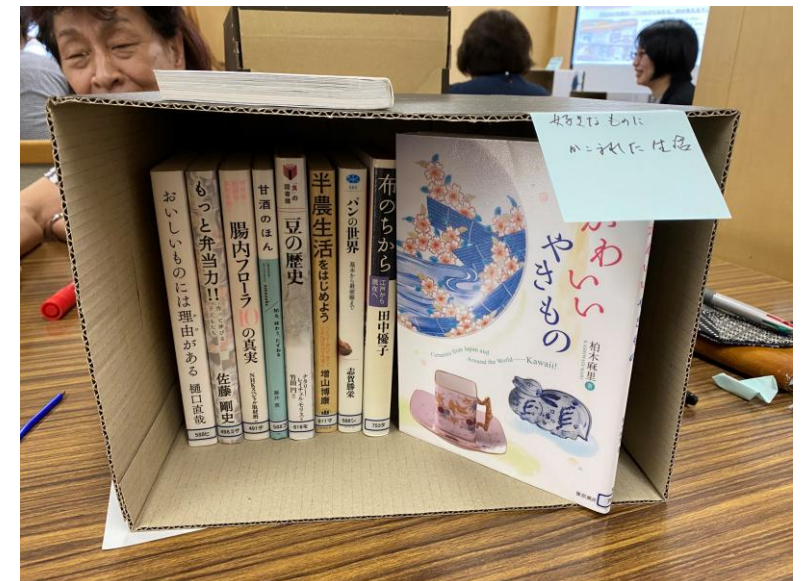
参加者のみなさんによって個性豊かな本棚が生まれました。
これらの本棚は、図書館で展示しています。



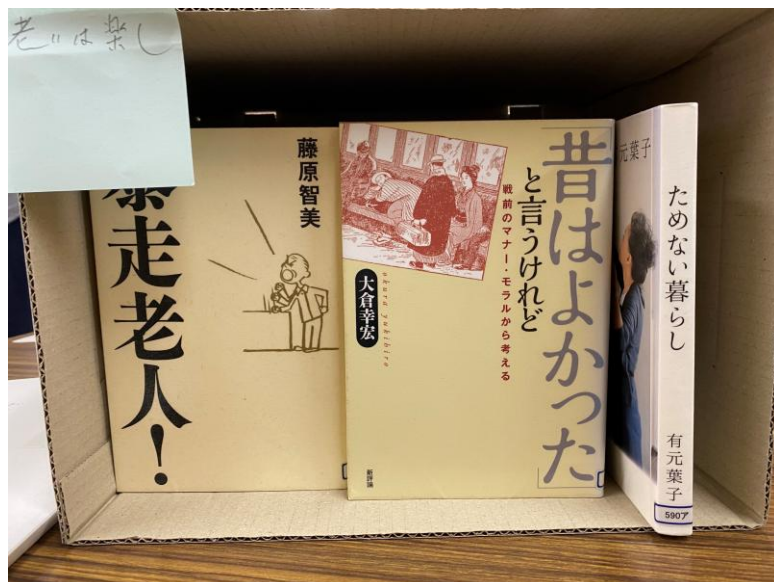
「新たな世界をつくる！」



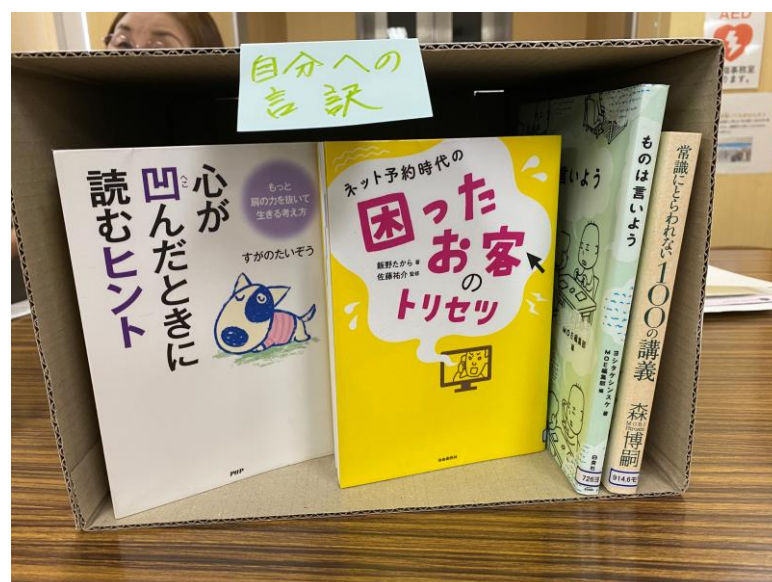
「人類はどこへつき進むのか？」



「好きなものにかこまれた生活」



「老いは楽し」

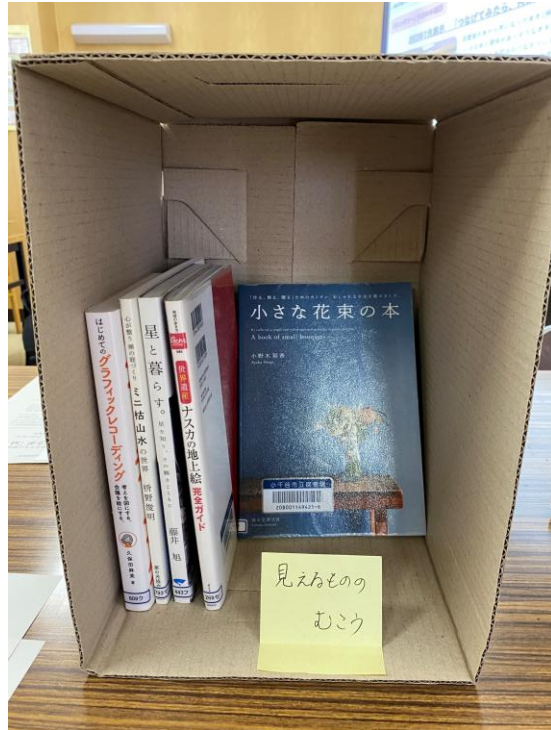


「自分への言訳」

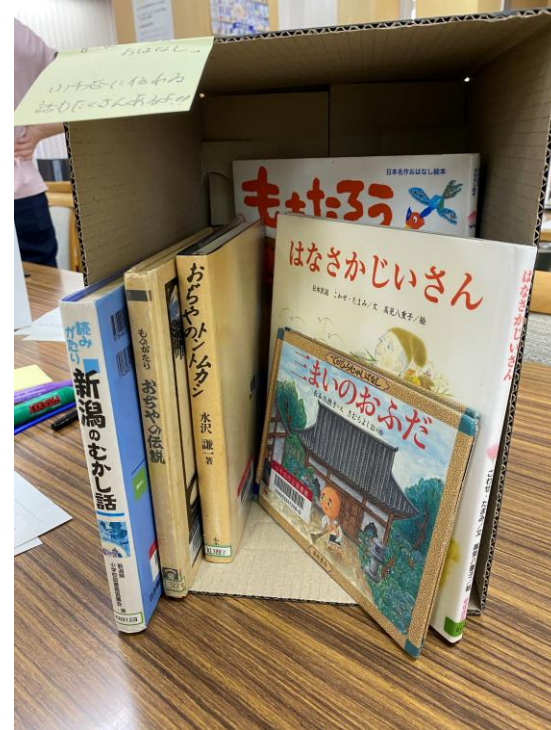


「持ち物少なく関係は濃いくらし」

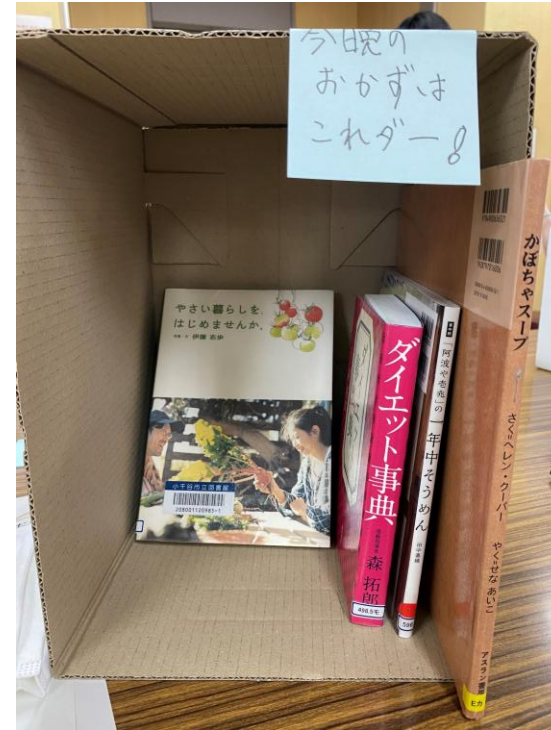
わたしの世界（テーマ）の本棚（2）



「見えるもののむこう」



「昔むか～しのおはなし」

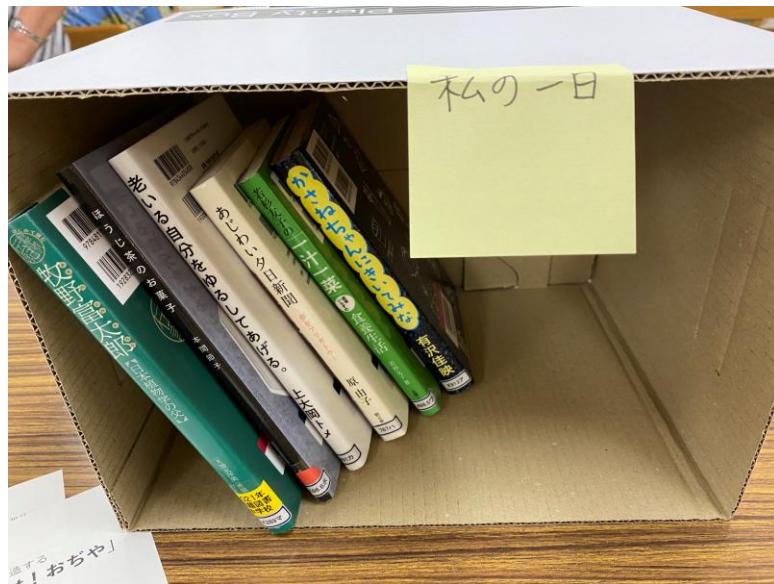


「今晚のおかずはこれダー！」

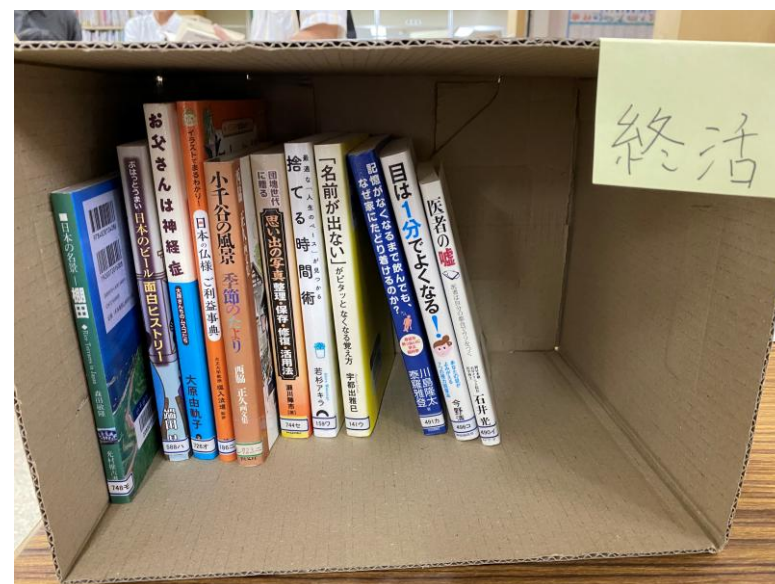


「勉強したいと思ってた人たち」

「イチオシ絵本」



「私の一日」

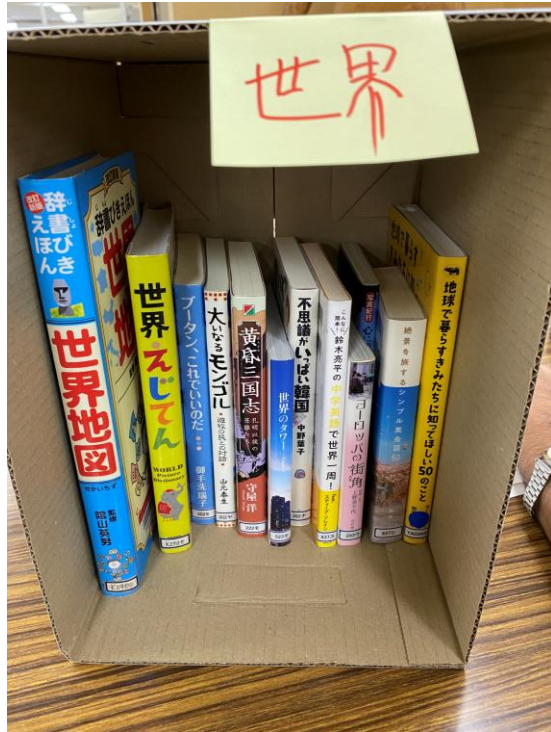


「終活」

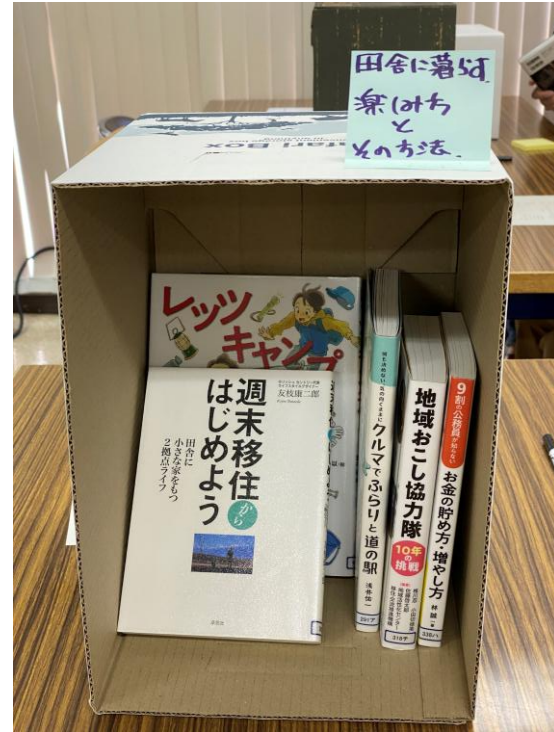


「ビジネス本」

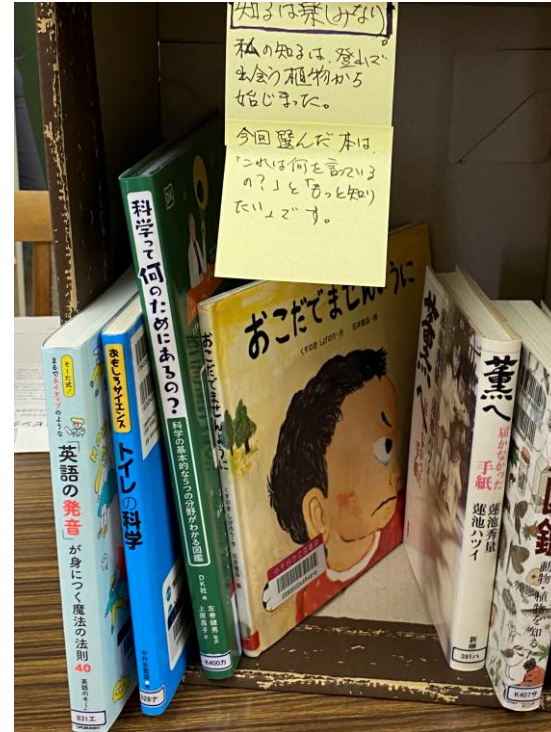
わたしの世界（テーマ）の本棚（3）



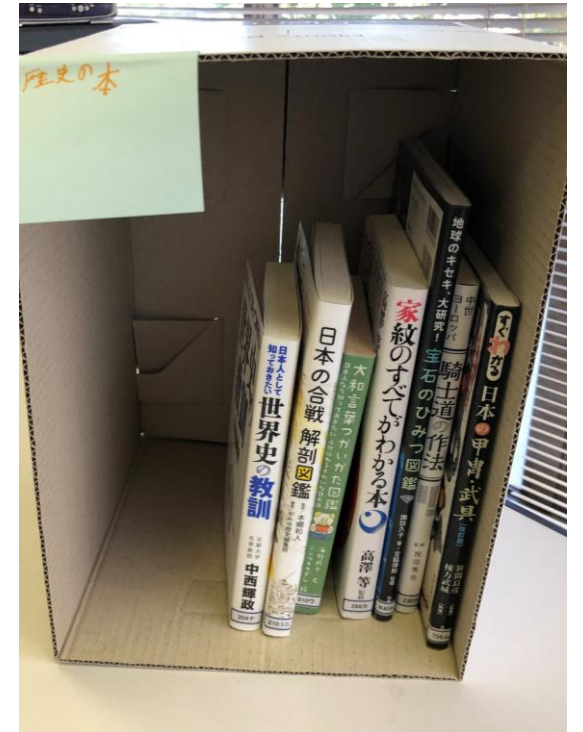
「世界」



「田舎に暮らす楽しみ方とその方法」



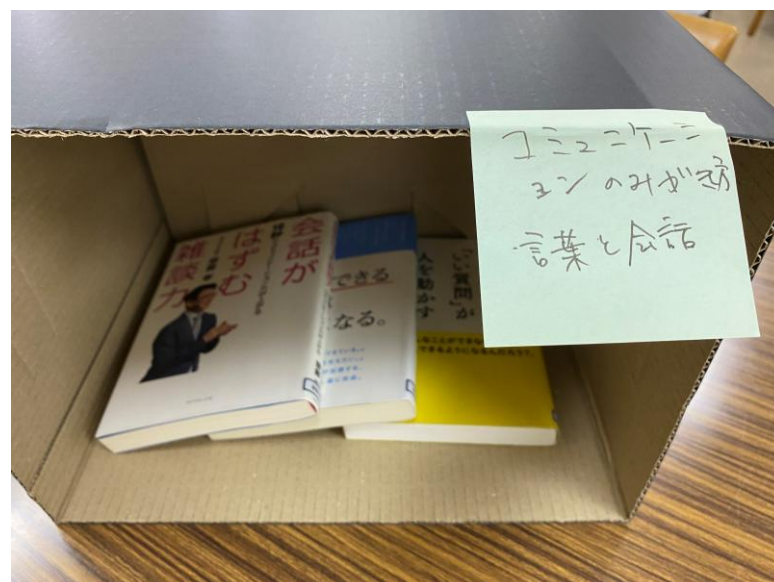
「知るは楽しみなり」



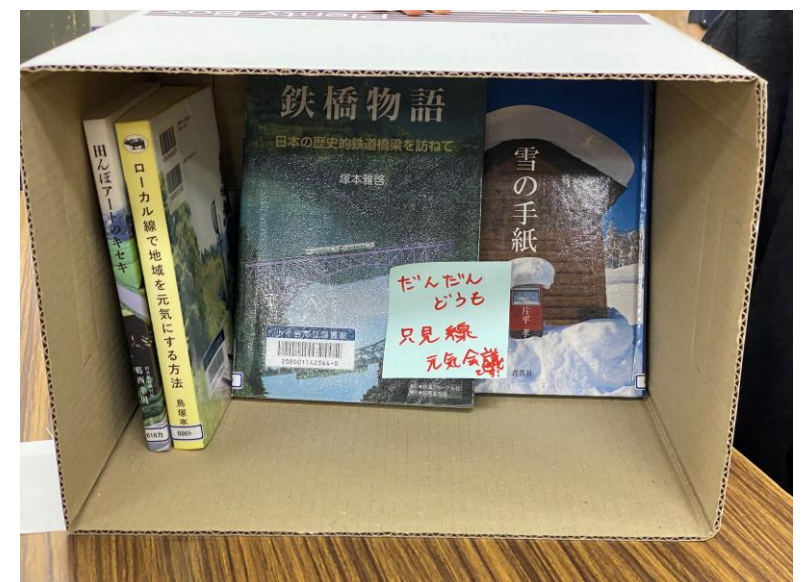
「歴史の本」



「人生に、寅さんを！」

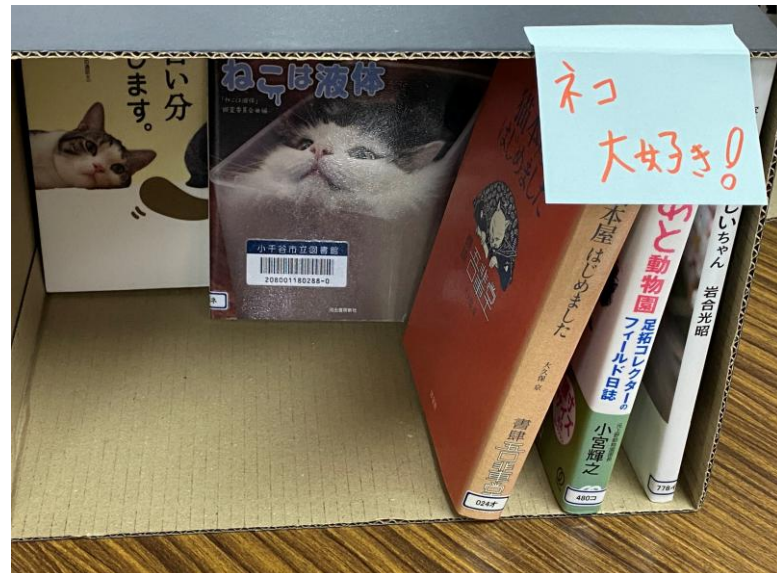


「コミュニケーションのみがき方
言葉と会話」

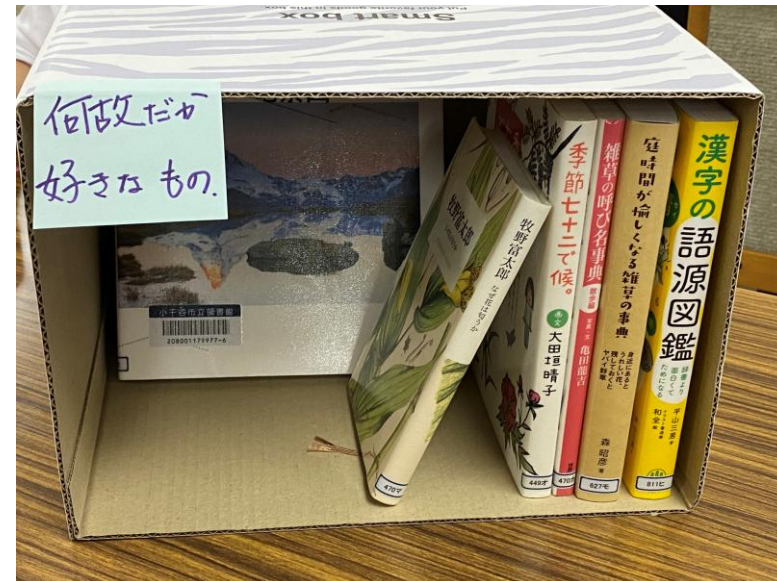


「だんだんどうも 只見線 元気会議です」

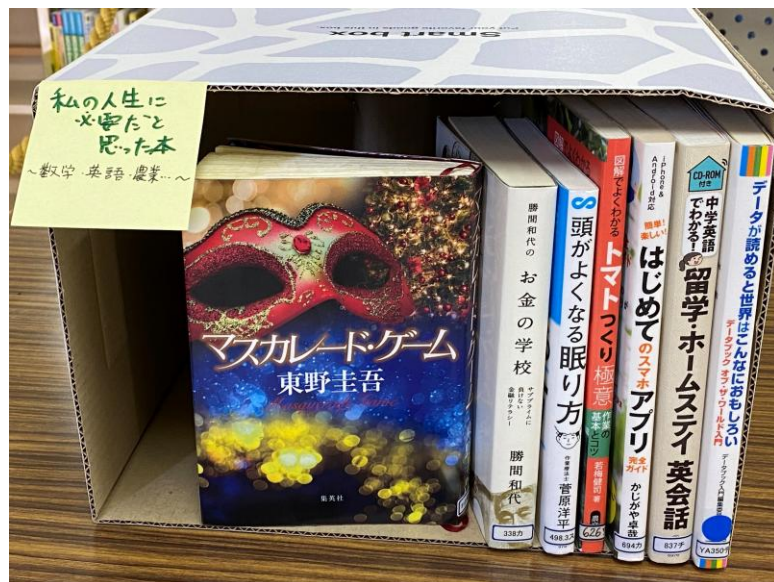
わたしの世界（テーマ）の本棚（4）



「ネコ大好き！」



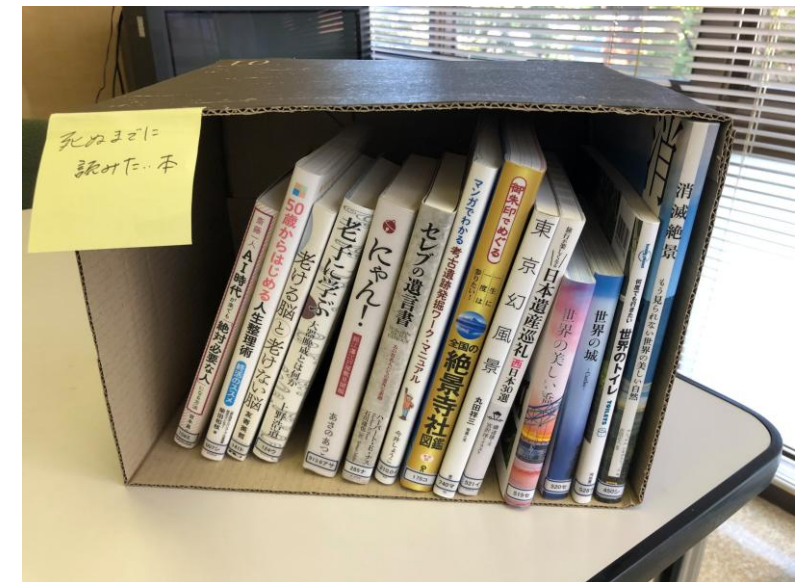
「何故だか好きなもの」



「私の人生に必要なだと思った本
~数学・英語・農業...~」



「欲望のままに生きたい」



「死ぬまでに読みたい本」